

第 63 回 KTSM 実技セミナー in 涌谷 開催報告



開催日時：平成 30 年 3 月 18 日（日）9 時 00 分～13 時 10 分

開催場所：涌谷町町民医療福祉センター 研修ホール・第 1 会議室

宮城県遠田郡涌谷町涌谷字中江南 278

主催：涌谷町医療福祉センター地域 NST

共催：NPO 法人 口から食べる幸せを守る会® 大崎栄養士会

開催目的

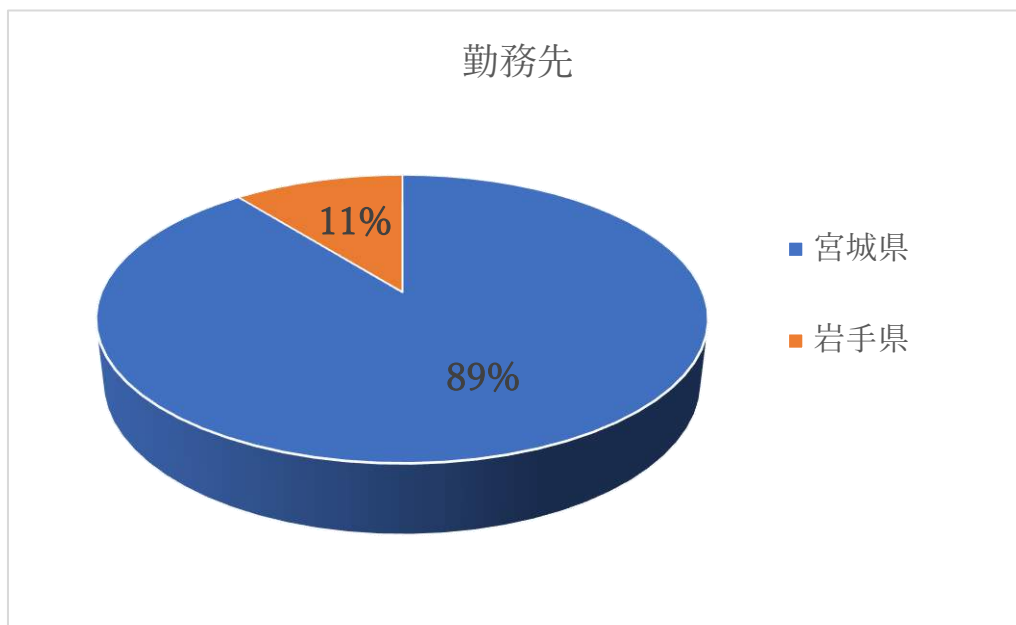
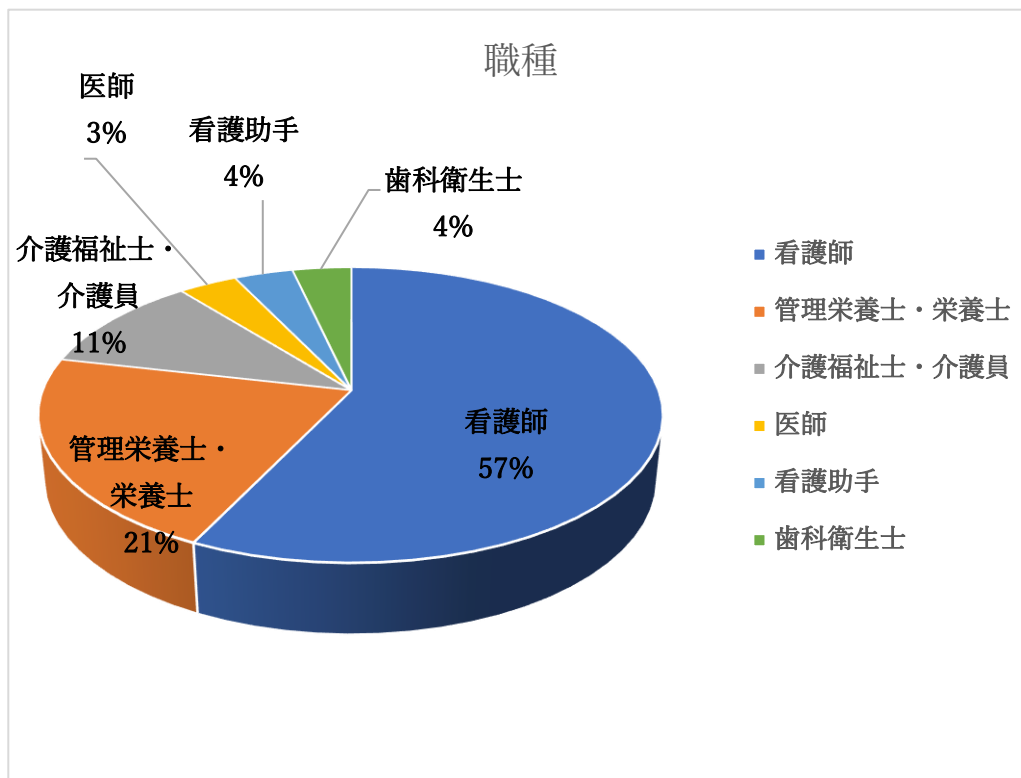
高齢化が進み、複数の原因による摂食嚥下障害を有する高齢者が多い中、適切な評価、介入がされないまま経口摂取を禁止されている患者も少なくない。また、複雑化した摂食嚥下障害に対し、スキル不足などにより、食べる支援が充分になされていない現状がある。今回早期経口摂取開始に向けた口腔ケア、ベットサイドスクリーニング評価安全・自立を目指した食事介助技術などについて包括的スキルを習得する。また大崎地域の食べる支援への取り組みが広がり、食べたいと願う患者、食べさせたいと願う家族の思いがかなえられる地域を目指して開催する。

講師・アドバイザー一覧<敬称略>

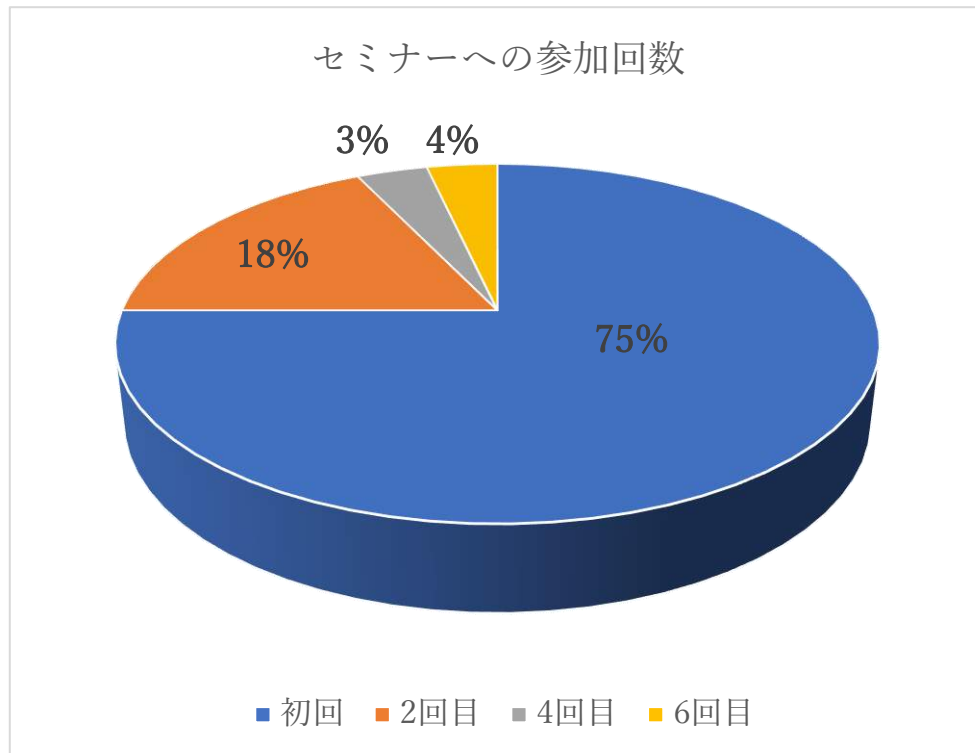
氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山 珠美 （神奈川）	NPO 法人口から食べる幸せを守る会理 事長	看護師（日本摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士） KTSM 実技認定者
竹市 美加 （大阪）	NPO 法人口から食べる幸せを守る会副 理事	看護師（摂食嚥下看護認定看護師） KTSM 実技認定者
一瀬 浩隆 （愛知）	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 理事 あい訪問歯科クリニック	歯科医師（日本摂食嚥下リハビリテーション学 会認定士） KTSM 実技認定者

アンケート集計結果（参加者：30名 回答率：93%）

Q1 参加者の職種と勤務先の都道府県



Q2 KTSM 実技セミナーへの参加回数



(参加理由)

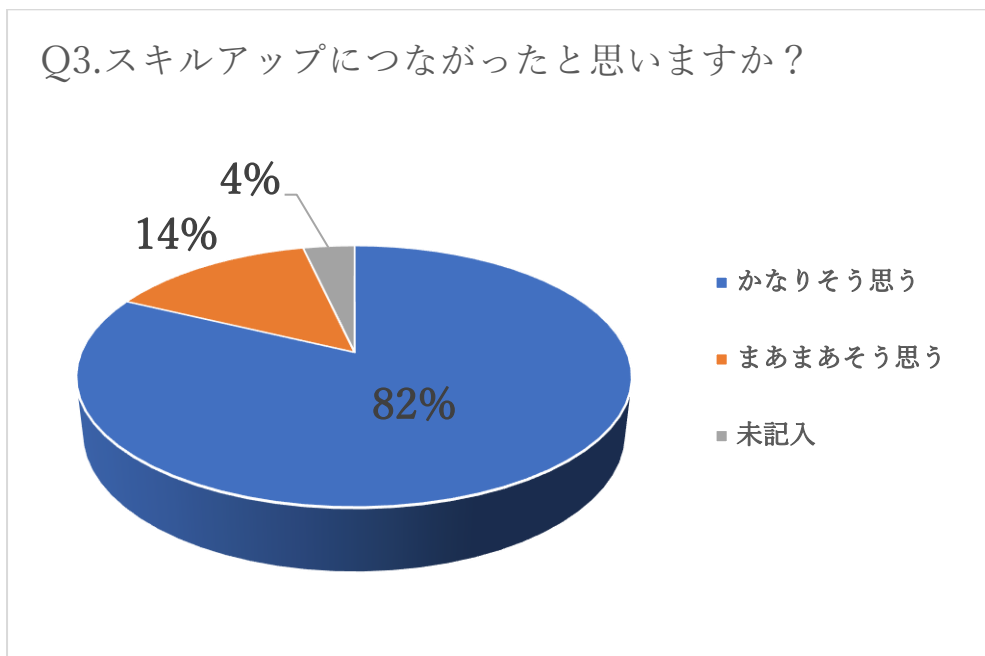
- ・ 私の勤めている病院には、入院、訪問診療で嚥下機能低下した患者さんが多くいます。入院で、在宅で、適切な食事介助、評価を行うために学習したく参加しました。
- ・ 以前セミナーを受けた方から、とても良いとの感想があったから。
- ・ 食事介助、口腔ケアが業務の中で多く、負担だったため。人数が多く時間も限定され、大変でした。
- ・ 技術を身につけたかったので参加した。
- ・ 誤嚥性肺炎で入院する患者さんも多く、食事摂取困難と判断される事もあり、食事をまた再開できる機会を増やしたいと思ったから。
- ・ 大崎市で昨年行われた時に参加し病棟で看護師に伝達するために再度実技セミナーに参加し、口腔ケア、摂食嚥下について学びたいと思った。
- ・ 新人であり、知識、技術が浅いため、スキルアップを図りたかった。
- ・ 訪問看護を長年やっていて摂食嚥下に問題がある方が多くおり自分自身のスキルを向

上し食べられる方を増やしていければと思い参加しました。

- ・ 技術レベルの向上と現在の支援の振り返りをする。
- ・ 在宅での指導に役立てたい。
- ・ 今の知識を向上させたい。
- ・ 摂食嚥下の技術を身につけたかったため。
- ・ 今まできちんと“食べさせる技術を学んでいなかったため、しっかりした技術を身につけたかったため。
- ・ 知識、技術を再確認し定着させるため。
- ・ 嚥下障害患者の関わりが多いので。
- ・ 口腔ケア、食事介助技術を習得したく参加しました。
- ・ 誤嚥を防ぐスキルを身につけたかったため。
- ・ 経口摂取が不可能と言われる患者さんが摂取できるよう介助していきたいと常に思っていたため。
- ・ 食べにくそうな患者さんがどうしたら安全に楽に食べられるようになるか学びたかったため。
- ・ 安全に食べるためのポジショニングや口腔ケアを学び、さまざまな状態の方にあった介助を行い、少しでも食べることを楽しいと思ってもらいたいから。
- ・ 前回参加後、わかる、できる範囲で実践しましたが、少し食べられるようになりましたが、数ヶ月後亡くなられ、他のスタッフにも伝える自信がなくなったため。
- ・ スキルアップのため。
- ・ 病院栄養士として患者様とご家族に口から食べることを支援したいと思ったため。
- ・ 口腔ケアやポジショニングは今まで実践した事がなく今回のセミナーで体験したいと思いました。
- ・ 特養に勤めるようになってまだ日が浅く食介に入る機会もあり迷う事や疑問に思うことが多々あり、しっかり基礎を学びたいと思った。安全においしく、しっかり食べていただきたいと思っていたので。
- ・ 食べるための支援とは何か、どんな支援が必要なのかが知りたかった。支援が知りたかった。
- ・ 食事介助の方法を知りたかった。

- ・ 2012年に小山先生の講演を聞いて実技について知りたいと考えていたので。

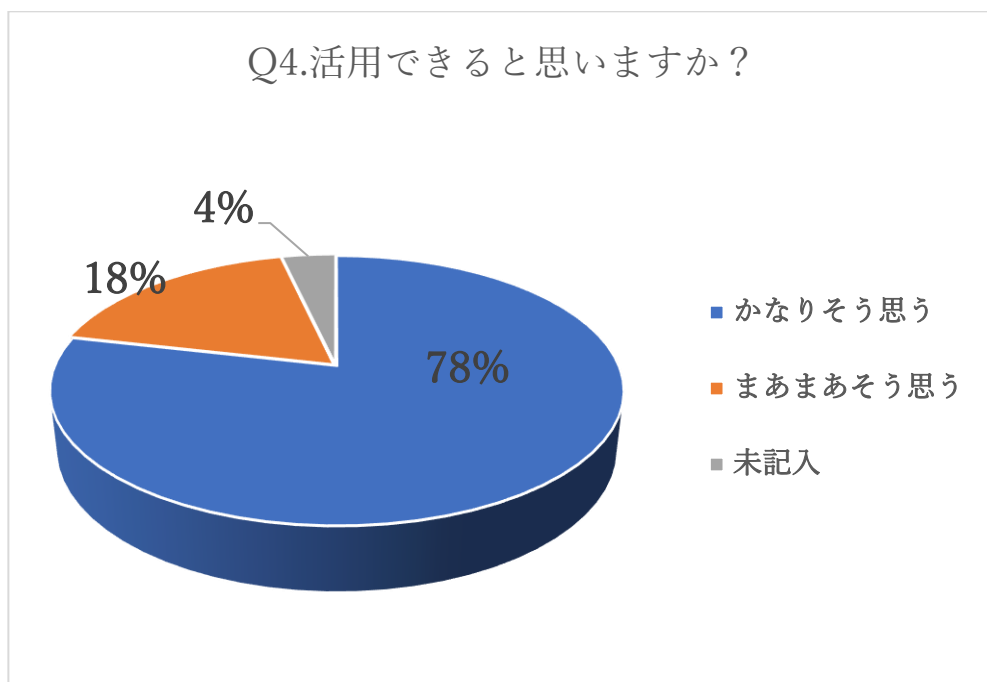
Q3 本日の実践セミナーの内容は、ご自身の口から食べる技術に関するスキルアップにつながったと思いますか？



- ・ 2回目の受講ですが、前回と同様に学ぶべき点がたくさんありました。
- ・ 実際に食事介助の実践をすると実技の内容と違い大変勉強になりました。スプーンの運び方を自分の身体で覚えられるようにしていきたい。
- ・ 今までの技術を見直せました。
- ・ 本を見たり、聞いただけではわからない事がたくさん学べました。
- ・ 日常行っていることがほぼ間違っていたため今回学んだことを今後にかかしていきたい。
- ・ 実践できる所から少しずつ現場で行っていきたいと思います。
- ・ 技術のみの向上だけではなく、問題のアセスメント、理論を知って説明することで理解していただくことで協力が得られることが理解できた。
- ・ 今まで患者さん、利用者さんに対してアセスメントできていなかったと実感した。こちらから一方的な方法だった。
- ・ 実際に体験し、いかに今までの介助法が苦痛を与えてしまっていたかを実感させられました。また、どうすれば安楽な姿勢にできるかも学ぶことができました。
- ・ 実際に行ってみて、かなり間違った方法や自己流でやっていた事が確認できた。
- ・ 実技を体験し実感できました。患者（介助者）体験をすることで目線が変わりました。

- ・ 口を開けない方の介助はマッサージをすること、スプーン的位置によって自然と口を開けるといことがすごく勉強になった。
- ・ 食事介助時のポジショニング方法を学ぶことができた。
- ・ ポジショニングの意味、大切さがよくわかりました。
- ・ ポジショニングは体験してみて納得しました。
- ・ 実際に食介を受ける側の立場を体験することで、食べやすさ、食べにくさが明確になったことが多かった。また、技術のスキルアップにつながった。今までのふり返りもできこれまでとは違った食介ができることに少し自信が持てるようになった。
- ・ 今できること、少し改善すればできそうなことを考えさせられたセミナーでした。
- ・ 食事の姿勢、ポジショニングの大切さがわかりました。
- ・ 日頃、訪問先の施設で食事の際、違和感を感じる場面があった。その疑問の解決糸口につながった。

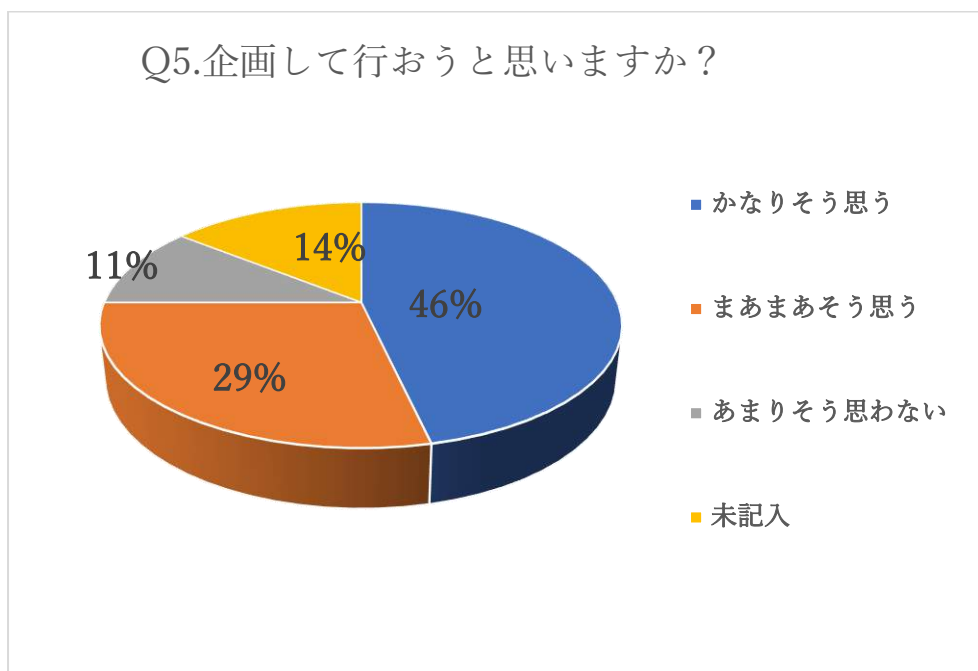
Q4 本日の実践セミナーの内容は、今後の実践の場面で活用することが出来ると思いますか？



- ・ 明日からの診療での評価、介助に生かしたいと思います。
- ・ 車椅子で食事摂取をされる患者さんへ三角にタオルを入れる技術は初めて知りました。円背の患者さんへも実施してみたいです。
- ・ 口腔ケアの方法、食事介助時の姿勢、口を開けない方へのアプローチが今後活用していきたい。
- ・ 食事介助法、食事時のポジショニング、口腔ケア法。

- ・ KT バランスチャート評価→アセスメント→介入していく。
- ・ 姿勢、ポジショニングを工夫したい。個別性を考える。
- ・ 老健施設での生活援助（食事介助）の場面。
- ・ 日常業務の口腔ケア、ポジショニング、食事介助に活用できる。
- ・ 実際高齢者の誤嚥性肺炎の入院も多く、食事再開時に誤嚥を防ぐ介助ができると思う。またスタッフや家族へ指導も行って行けると思います。
- ・ 施設の利用者に対する食事介助。
- ・ ポジショニングや口腔内の清潔は急性期の場面で可能だし、水分摂取など、ST さんをお願いしている事も多かったが一緒にやってみる事もできると思った。
- ・ 実際の食事介助や口腔ケア（日々の業務）。
- ・ リハビリ Dr やスタッフ、ST への関わりだけではなく、看護師でもできる事を取り入れていきたい。
- ・ CV、胃瘻、経鼻栄養の患者様が 8~9 割占めている現状。今回の学びで姿勢を整え、口腔環境を良くし、意識づけすれば、もっと多くの患者様が在宅へ帰れるのではないかと感じました。
- ・ たくさんのポイントを教えていただいたので、普段の仕事の時にも試して実践していきたいです。
- ・ 口腔ケアの方法が見直しになった。
- ・ 円背の方の車椅子やリクライニングでのクッションの使い方は、これから活用したいと思った。
- ・ 明日から患者様のアセスメントに活用します。
- ・ 食事を目の前に置く、飲み込み中に話しかけないなどすぐにできる事から伝達して実践していきたいです。
- ・ 食介の場面で、なぜ、どうして理由付けや原因も学ぶことにより少しは自信を持って実践できると思った。さらに経験値を増やし、さらに自信を持てるよう日々努力したいと思った。食事形態による飲み込みについても、しやすさ、しにくさを体験を通し実感することができたので実践につなげたい。
- ・ 現在介助しないと食べられない方において、テーブルを姿勢、肘のポジショニングで自分で食べられるかもしれないと思いました。
- ・ ミールラウンド時にポジショニングの調整。
- ・ 施設訪問の際、摂食の際に一緒に考えてあげられる。地域ケア会議で事例（食べることについて）一緒に考えてあげられる。

Q5 本日の実践セミナーのような研修をご自身の病院、施設、地域で自ら企画して行おうと思えますか？



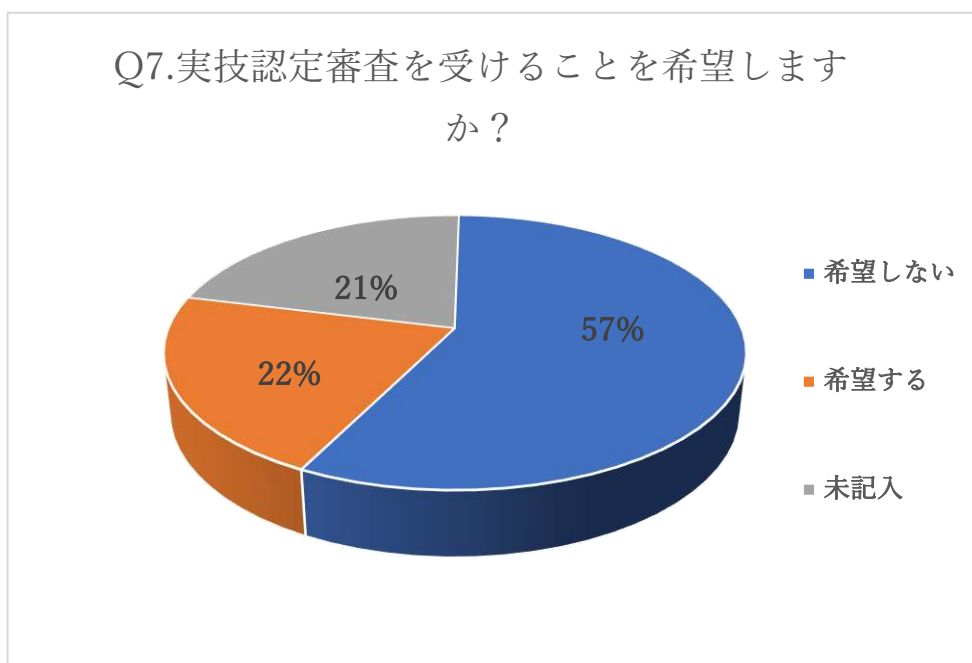
- ・ 院内での勉強会（実技を含む）など、できれば企画して行いたいと思います。
- ・ まずは病棟から病院で広めようと思っています。
- ・ 院内全体で KT の方向性が確立できると良い。
- ・ 本日参加した人で勉強会を随時行い当院全体に技術が広がれば良いと思う。
- ・ もっとしっかり学んだら実践していけたらと思います。
- ・ 車椅子でのポジショニング。
- ・ 院内全体で統一した技術を習得できるようにしたい。
- ・ もっと自分で理解しスキルを身につけ、他の人達にも伝え広めて行ければと思う。
- ・ 定着させるのは難しいかもしれないが、口腔ケアなど出来る事から定着させていければと思う。
- ・ 看護助手なので、そのような企画があれば参加したりお手伝いしたりできればと思います。
- ・ 研修したことを、他の職員にも伝え、1人でも多くの方に、おいしく食事をしていただけるように支援や介助をしたいと思った。
- ・ ポジショニングについて。
- ・ できれば企画したいと思うがまだ自分自身のスキルを上げたいと思う。

- ・ 職場内での研修。
- ・ 賛同者や仲間づくりが必要と思われます。

Q6 「口から食べる」ことに関する内容で、今後の実践セミナーで取り上げてもらいたい内容があればご記入ください。

- ・ 今回は口を開かない、認知症で食べられないなど困難事例について具体的にアドバイスを受けながら学ぶことができました。具体的なテーマを持ってセミナーを受けることでより実践的に学びました。
- ・ ポジショニング。
- ・ 1回目だけでは詰め込み過ぎになったので、もう一度同じでよいので実技ゆっくりしてみたい。
- ・ 困難事例の対応（認知症、脳梗塞の片麻痺など）。
- ・ 他職種で関わった事例で、食支援、KTSMをどのように展開していったか。施設でまたは地域でどのようにしていったかを教えていただければと思います。
- ・ 今までの分を本より良く学んでいきたいと思います。
- ・ 口の中に手を入れてしまうと、噛みついてしまう方の口腔ケア方法。
- ・ 食事形態について迷うこと、悩むことがあるので、自分自身での学びも必要ですが、経験豊富な方からの実例を通して学べたらと思う。
- ・ センスのよい食事内容、献立の組み方が知りたいです。
- ・ 食べられる姿勢、ポジショニングをより確実にしたいと思いました。

Q7 実技認定審査を受けることを希望しますか？



実技セミナーの様子

<全体講義>

セミナーのはじめは、小山先生による「口から食べる包括的スキル」の講義です。「口」や「嚥下」だけを評価しても「口から食べる」ようになりません。全身状態や呼吸、姿勢、栄養など包括的な視点でみるということが重要であるということ学びました。



<演習>

①安全に食べるための口腔ケア・ポジショニング

食べる前には姿勢と口の環境を整えることが大切です。基本的なポジショニングと口腔ケアをデモと相互実習で学びました。



②ベッドサイドスクリーニング評価では、液体やゼリーでの評価方法だけでなく、頸部聴診法、基本的なスプーンテクニックなどを学びました。



③セルフケア能力を高めるための食事介助

④車椅子での基本姿勢、セルフケア能力を高めるための食事介助

全介助や一部介助での食事介助方法を学びました。五感を使用した食物認知の高め方、リクライニング角度により食事の環境や形態を調整する、車椅子でのシーティングや食事環境設定など介助から自力摂取につながる介助方法などを体験していただきました。





第63回宮城実技セミナーに参加して下さった受講生の皆様、会場の提供とセミナーのサポートをして下さいました涌谷町医療福祉センターNSTの皆様、本当にありがとうございました！
明日から即実践できる！人に伝えたい！KTSMの実技セミナー！地域から「食べる輪」を広げていきましょう！！

皆様、ご参加いただきありがとうございました！